

令和4年度 狭山市立 入間野中学校 学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方針について評価する。

※ 【評価の目安】

- A : よくできている。 (90%以上)
- B : 概ねできている。 (85%以上)
- C : あまりできていない。 (70%以上)
- D : できていない。 (70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から 評価(文章表記)
			評価	説明	
学校運営全般	1	学校は、学校教育目標の達成に向けて、組織的に取り組んでいる。	A	・学校教育目標及び目指す生徒像の達成に向けて、会議やワーキンググループ内での合意形成を通じて、全職員で共通理解を図りながら、学校経営方針を教育活動に反映させるよう努めてきた。少しずつではあるが、その成果が月ごとの生徒の生活行動目標のフィードバックの結果に表れてきた。本校の経営の柱である生徒の「知性・品性・感性」を磨く教育活動の展開については、知性と品性の面は具体策を講じて実践してきたが、感性の面で、具体策が明確ではなく、次年度以降の課題となる。本年度は体験的な学習を増やしたが、次年度は生徒の感性を磨く体験的な学習を計画したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に落ち着きがあり円滑に運営されていると思われる。 ・子供達の為に学校運営が出来ていると思います。老朽化しているものは徐々に新しいものにするなど環境も整えているので、もう少し進めてほしい。 ・全体的に見て教員が主役ではなく、生徒が主役になれる学校運営が出来ていると思う。 ・生徒数が多い分、1人1人にまでは対応が出来ていないと感じる。しかし、極力生徒に寄り添い合う教職員が増えてきた感じもある。 ・全体的にはよい。一部掲示物に古いものがある。昇降口前の外掲示板、職員室内の学年掲示板など、他廊下の掲示物。
	2	学校は、生徒の生活によく気を配り、問題に対して組織的に、迅速に対応している。	A		
	3	学校は生徒の知性・品性・感性を磨く教育活動を展開している。	B		
	4	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A		
	5	教師は、生徒理解に努め、一人一人の生徒の心の悩みに応えようとしている。	A	・生徒理解については、計画された教育相談の他に、いわゆる「チャンス相談」を積極的に取り、生徒のわずかな変化に気づく教員のスキルの向上に努めてきた。また、学年や生徒指導部会、教育相談部会が先導して組織的に課題解決に臨むことはできたが、引き続き不登校生徒の解消については重点課題として取り組んでいく。	
	6	清掃が行き届き、学校がきれいである。	A		
	7	学校の施設・設備は安全に管理されている。	B	・保護者や地域の負託に応えるべく、学校経営を推進してきたが、生徒の地域での過ごし方や関わり方、交通安全など不十分な面があり、今後の学校課題の一つとした。	
	8	学校は保護者や地域の負託にこたえる学校運営を推進している	B		
学習	9	教師は、生徒が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	A	・本校の生徒の学習上の課題について、国や県の学力学習状況調査の分析をもとに設定した学習上の重点に配慮した指導計画を策定し、授業改善に努めてきた。各教科の特性で具体策に差異はあるが、タブレット端末の有効活用や学習活動に工夫を凝らすなどして着実に課題の克服に迫っている。生徒の意識調査ではわかりやすい授業が展開されているという肯定評価は概ね8割を超えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。教材提示に関して見やすいが、時折画面転換が早いもの、映像の小さいものがあります。 ・授業に皆集中できている。 ・子供達が興味を持つように、動画やパソコンを使い授業が行われている。発言する機会も増やしている。英語なども文法だけではなく、会話も大切にしていて、授業で、2人組などで取り組んでいる。 ・ICTの利用は時代に合った進め方であるが、ICTに頼りすぎた教育はどうかと思う。教員が実際にやってみせるからその価値も考えていただきたい。 ・家庭学習がまだ定着していない子どもも多いです。これから工夫を重ねて家庭学習が定着する様に頑張ってもらいたいです。
	10	教師は、生徒の基礎・基本の定着に努力し、学力の向上を図っている。	B		
	11	ICTを積極的に活用した授業が展開されている	A		
	12	生徒は、授業規律をよく守り、落ち着いて学習に取り組んでいる。	B	・家庭学習については、学校から家庭学習の課題を積極的に提示してきたが、自主的な家庭学習の習慣化に課題が残り、次年度以降、タブレット端末を活用した自主学習を更に充実させたい。	
	13	生徒は、家庭学習の習慣を身につけている。	C		
規律ある態度	14	学校は、行事等を通じて生徒のやる気を育てる指導に心掛けている。	A	・生徒の意欲を引き出し、自己肯定感を高める学校行事の運営を進めてきた。その成果は、自己肯定感に係る生徒の質問紙調査の結果が、本校生徒は国や県よりも高いことからみてとれる。	<ul style="list-style-type: none"> ・以前より服装がしっかりしているように感じる。 ・5分前着席なども定着している。挨拶はもう少しかなあと思います。 ・知っている人へのみの挨拶でなく、学校関係者、地域の方とも挨拶を行うなどしてほしい。 ・挨拶や返事が出来ない子ども少数だが居る。お手本となる教職員がきちんとして挨拶や返事ができる様になっていかないとですね。
	15	生徒は、TPOを踏まえ、あいさつや正しい言葉づかいができています。	B	・生徒の規範意識は比較的高く、学校生活のルールを遵守して落ち着いた学校生活を送っている。ただし、SNSに端を発する対人関係のトラブルについては、数こそ少ないが散見されるので、SNSのトラブルゼロを目指したい。	
	16	生徒は、きまりや時間を守って生活している。	A		
	17	生徒は、自他を大切にし、思いやりのある言動がとれている。	B		
健康・体力	18	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	A		
	19	教師は、生徒の学校生活が充実するよう指導している。	A	・今年も、教育活動が新型コロナウイルスの感染の波に影響を受ける傾向はあったが、過去の経験と実績から極力影響を小として様々な教育活動を展開することができた。生徒自身も自発的な感染症対策の取組ができるようになり、防衛体力が備わりつつある。次年度に向けて、新型コロナウイルスの位置づけが変わるにあたり、再度、対策を見直していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナもあり、健康面、体力面は大変だったと思いますが子供達の様子をよく観てくれた。 ・子どもたちはコロナに向き合い、しっかりと自己防衛をしています。体力面も体育授業や部活動を通じて意欲的に動いている。
	20	生徒は、体育授業や部活動に意欲的に取り組んでいる。	B		
21	生徒は、健康を意識し、自己の健康管理を意識している。	B			
地域との連携	22	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供し、説明責任を果たしている。	A	・時代の要請に応じて、本年度は、学校だより、学年だより、PTA便りなどを配信用アプリケーションを活用して、電子配信することができた。また、学校行事のコロナ禍の制約を緩和して保護者地域に生徒の活動をじかに観てもらおう機会を意図的に増やした。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でやむを得ないが、自治会や祭りなどで協力を更にお願したい。 ・地域懇談会、学校運営委員会、地域のボランティアなどにも積極的に取り組んでいる。コロナ禍があったのでなかなか難しいがこれからは、もっと地域と連携して子供達の見守りやボランティア、人とのつながりを大切にしてほしいです。 ・何かあれば地域に相談したり提案をしている。とても良い環境だと思う。
	23	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	B		